

第3回「第三国研修保全地域における参加型ガバナンスと
エコツーリズムのための協働管理能力の強化」

於 サンホセ

2026年2月25日

JICA コスタリカ

所長 吉田 憲

フリオ・ドゥアルテ・ヴァン・フンベック閣下

パラグアイ共和国 特命全権大使

松本勝弘様、在コスタリカ日本大使館参事官

エミリオ・ヤニェス・ブラボ様、チリ大使館領事・国際協力担当官

フェルナンド・ブリセニョ・バルトダノ様、開発管理コーディネーター

ステファニー・モリー様、持続可能な観光プログラム担当官

エステファニー・ベガ様、持続可能な観光プログラム担当官

アルゼンチン、ベリーズ、ボリビア、チリ、コロンビア、エクアドル、グアテマラ、ホンジュラス、パラグアイ、ペルー、ドミニカ共和国、ウルグアイからの参加者の皆様

SINAC の同僚の皆様

ご列席の皆様

皆様、こんばんは。

コスタリカ国立保護区システム（SINAC）が実施した「保全地域における参加型ガバナンスとエコツーリズムのための協働管理能力の強化」に関する第三国研修の閉会式に、皆様をお迎えできることを嬉しく思います。ここ数週間のご尽力と、コースの成功裏の終了に、心よりお祝いを申し上げます。

JICA は、第三国研修を通じて、パートナー国から派遣された参加者が有用な知識を見つけ、自らの能力、組織、環境を改善するための知識を再構築できる条件を整えることを目指してきました。これは、あらゆる国の社会経済の発展にとって不可欠な道であるとの確信のもと、「人的能力の開発」という重要な概念に基づく、我々の協力にとって非常に重要なプログラムです。

ブラジルで開催された COP30 では、ポルトガル語の「Mutirão」（共同作業、協力、共に働く）という用語がテーマとして採用され、パリ協定の実施の加速と国際協力の進展について議論が行われました。

一方、JICA と SINAC はこれまで、「バラ・デル・コロラド国立野生生物保護区における参加型管理プロジェクト」および「生物多様性保全における参加型管理の推進プロジェクト」（通称 MAPCOBIO プロ

プロジェクト)で協力し、保護区管理における市民参加や地域住民による野生生物の参加型モニタリングを推進し、保護区管理における教訓の活用と特定を行ってきました。MAPCOBIO プロジェクトとして知られるプロジェクトで、保護地域の管理において地域住民との協働による野生生物のモニタリングや市民参加を促進し、コスタリカにおける経験と優良事例の体系化を通じて得られた教訓を活用・特定してきました。

こうした好事例と SINAC の貴重な実績を踏まえ、JICA は SINAC を、三角協力による地域における持続可能な開発の推進において貴重なパートナーと認識し、この第三国研修の実施を推進してきました。これは、地域における責任ある持続可能な観光の促進、地域住民による生態系の保護、そして生態系に依存するコミュニティへの意識啓発と利益創出を目的としています。

この研修では、ホスト機関である SINAC が、講義やフィールドツアーを通じて、理論と実践の両面から、参加者に保護地域の持続可能な管理とエコツーリズムの促進に関する基本的なテーマを深く掘り下げ、市民参加と市民科学の重要性、さまざまな公的機関や民間セクターとの提携の構築、そして自然環境を尊重し評価する責任ある観光を推進するための協力的な取り組みを強調しました。

SINAC には、研修参加者たちと交流する機会を提供してくれたこと、また、このコースの運営、献身、責任、そして域内の中南米諸国と知識、経験、優れた実践例を共有してくれたことに感謝いたします。

また、参加者の皆様にも感謝申し上げます。皆様は、この数週間の研修で多大な熱意と多様な能力を発揮し、積極的な参加を通じて各国間の知識の交換を促進してくださいました。この研修で学んだことが、それぞれの職場で役立つことを願っています。また、参加者全員が、各自の機関で行動計画の実施、そして自国のリーダーとして推進できる連携や行動を模索されることを期待しています。

また、参加者の皆様には、自国の JICA 事務所に連絡を取り、本研修への参加について報告し、今回作成された行動計画を提出され、JICA との協力の可能性を探っていただくことをお勧めいたします。そうすることで、より一層、今回の研修の成果を実地に活かすことに繋がると思います。

皆様のご成功と、ご無事のご帰国をお祈り申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

以上